

蕨市では、平成23年7月に全国に先駆けて、子どもたちの健やかな成長のために、アウトメディア宣言を制定し、地域、学校、家庭が連携しながらアウトメディアの取り組みを進めています。本年度は、平成25年11月16日（土）に、第3回蕨市アウトメディア推進大会が蕨市民体育館で開催されました。学校関係者や各団体関係者、地域の方々など、多くの方々が出席されました。

蕨市アウトメディア活動実践報告

蕨市アウトメディア指導員 尾形 香里 氏

月1回以上の活動の中で、蕨市としてのアウトメディアへの取り組み状況の情報交換や、メディアと子どもに関連する講習会への参加など、多岐にわたっていてどれも「子どもとメディアのより良い関係づくりのサポート」を目的とした活動を行っています。今年度は新たな取り組みとして、小学校で行われる就学時健康診断の子育て講座の中で、保護者向けにアウトメディアの重要性を話し、家族で積極的に取り組むことができるよう啓発しています。

家族でアウトメディアに取り組むにあたり、親が一方的に「テレビを消す」「ゲームの時間を制限する」のではなく、子どもが自分自身で「リモコンの電源をオフにする」「ゲームの時間を決める」ことで、将来へのメディアコントロールの基本を身に付けることができるというのはもちろん、子ども自身の自己肯定感を大切にすることができると強調されていました。現代では、乳児がスマートフォンのアプリケーションをおもちゃ代わりにしている光景をよく目にしますが、自分自身でメディアを正しく使う判断ができない乳幼児は、使用すべきでないと説得力のある言葉が印象的でした。

講演 「身近に迫る！ネット依存」～ソーシャルメディアに振りまわされないために～

講師 エンジェルズアイズ代表 遠藤 美季 氏

1 エンジェルズアイズの活動

話の冒頭は、パソコンインストラクターとして仕事をしていた際に、仕事仲間がネット依存症になり、幻覚をみるようになったという衝撃的なお話でした。その経験をきっかけに、「ネット依存」に興味を持ち、後に「エンジェルズアイズ」という団体を立ち上げることになりました。主な活動内容は、ネット依存予防の活動講座やWEBでの情報発信、ネットに関連する相談をうけることで、ネット相談に関しては、学生からの相談がほぼ半数という現状に驚きました。

2 ネット依存の実態

メディアが発達していることで、現代のネット依存はオンラインゲーム依存やチャット依存、ソーシャルメディア依存など多様化しているようで、とくにスマートフォン依存が中高生の中で問題となっています。スマートフォンには、操作性の便利さやパソコンと同様な機能があり、生活や社会に密着しているという利便性がありますが、この利便性により依存する傾向を強くするようです。

また、ネット依存には人間関係が深く関与していて、人とのつながりを求める気持ちや不安からネット依存になるという特徴があり、現代社会におけるコミュニケーション不足がいかに深刻であるか、という現状を再認識しました。

3 ネット依存の対策

ネット依存は、重度になると治療に数年かかる場合も多くあることから、「予防すること」が一番大切であり、そのためには、ネットと現実的な生活の適切な距離を保つ意識を持つことが必要です。

家庭では、家族で理由なども含めて話し合い、家族でルールを定めること、学校では、コミュニケーションのあり方や相手を思う利用についての指導、ネット依存に関しての正しい知識を児童・生徒が共有できるよう指導していく必要があります、やはり地域・学校・家庭での連携した取り組みが重要であると強調されていました。日々変化していくメディアをめぐる状況が深刻となっている今、アウトメディアの取り組みは子ども達の成長にとってとても重要であり、今後も地域・学校・家庭が連携して取り組みを広げていくべきだと強く感じました。